



読み書き“そろばん”で育った物語

(株)秋田ふるさと村 営業部長 佐藤 文浩

実になるような内容ではありませんが、読み物としてご覧を。

まずは自己紹介。生まれは「かまくら」で有名な秋田県横手市の、今では国から伝統的建造物群として指定された増田町の商家に生まれたのが昭和42年。同町は漫画「釣りキチ三平」の作者・矢口高雄先生の出身地で、日本初の漫画をテーマとした「増田まんが美術館」が所在、45万枚余の原画が収蔵されている。

余談だが、矢口先生は30歳で漫画家になる前は銀行員で、その回顧録的作品に「9で割れ！」があり、表紙にしっかりとそろばんが登場している。

さて、私がそろばんに触れたのは物心がついた6歳、5つ玉算盤（知ってるかな？）を裏返しにしローラースケートのように遊び怒られたのが最初。

実際に家人はその「5つ玉算盤」を使って計算しながら、出納簿等を記帳していた記憶が鮮明にある。

時は経ち昭和52年、相撲は輪島か北の湖、野球は王貞治、テレビではピンクレディ最盛期、小学4年で珠算塾デビュー。半年通うも、何故か6級の見取算で足踏み、嫌気。塾に行くとウソを言い友人と遊び三昧、半年ズル休み。これが親にばれて大目玉を食らい、そろばん人生に幕かと思いきや、新たな塾がオープン。その先生が親と懇意だった関係上、小学5年に強制入塾…。

どうせまた見取算で躓いて終わり、そう思いながら通ってたら、あれれ？ これまでは問題集の解答だけだったけど、読上算とか暗算とかあるし。年齢問わずレベルでのクラス分けあるし。検定だけだと思っていたら大会ってあるんだ…。

そんなこんなが馴染んだのか、順調に級が上がって、小学6年卒業前に1級合格。中学進学で辞めるつもりが、スポーツ不得手の私目は運動部に所属せず、かつ塾長の圧に押され（自分弱っ！）継続。

目指せ国民大会出場をテーマに取り組むも、中学1年の私「こんなムズイ問題無理っ！」と思いつつながら毎日練習。これが段々とできてくる不思議。継続は力なりか！と気付く。

それでも珠算選手として決定的なダメージである暗算力の無さ。これを珠算科目でカバーしようとする健気な努力？ かな、右指のみならず、少～しだけ左指も使う技に。

そしてその日は来る。高校3年の春、強者不在、かつ素質ある若者はその芽が伸びきっていない間隙をついて（笑）ゲットした秋田県一。調子に乗って20歳でもう一回。

珠算を経験してきて良かったことは、個人競技メインで孤独な戦いではあるものの、塾の仲間、珠算部（湯沢商業高校）の仲間、大会で会う良き強敵らと語り、切磋琢磨し、今でもネットワークがあること。

加えて鍛えられた計算力と集中力、そして創造力。これはあらゆる仕事に大いに役立つ。私もそのお蔭で獅子奮迅の活躍（自分で言うか！）にて現在の職を全うし、地域の各団体で役を担い、地元の学校運営に携わることが叶っていると実感する。

最後に、こんな私からおこがましいとは思いますが、技術向上に日々研究をされ、子どもたちのために、また珠算界発展のために尽力されている関係各位に敬意を表したい。